

2002 年度行事報告

【総 会】

日 時：2002 年 7 月 13 日（土）

場 所：佐倉城址公園

参加者数：67 名

【第 33 回観察会】

日 時：2002 年 7 月 13 日（土）

場 所：佐倉城址公園

講 師：吹春 俊光

参加者数：67 名

採 取 数：42 種（不明種を含む）

観察記録(50 音順)

Cantharellus sp.（アンズタケ属）Collybia sp.（モリノカレバタケ属）Marasmius sp.（ホウライタケ属）Phallus sp.（スッポンタケ属）Scleroderma sp.（ニセショウロ属）アイゾメクロイグチ、アミスギタケ、アラゲキクラゲ、アンズタケ、イロガワリ、ウスキテングタケ、ウラムラサキシメジ、オオツルタケ、オオホウライタケ、オニイグチ、オニタケ？、カバイロツルタケ？、カワウソタケ、ガンタケ、キチャハツ、キツネノタイマツ、キヌガサタケ、キヒダタケ、クリイロムクエタケ、ケショウハツ、コガネキヌカラカサタケ、コフキサルノコシカケ、タマゴテングタケモドキ、ツブカラカサタケ、ツマミタケ、ツルタケ、ツルタケ（赤色の）ツルタケダマシ、トキイロヒラタケ、ネナガノヒトヨタケ、ノウタケ、ハイイロイタチタケ、ヒロヒダタケ、ミドリニガイグチ、ヤグラタケ、ヤマドリタケモドキ、硬質菌

【第 34 回観察会】

日 時：2002 年 9 月 28 日（土）

場 所：風土記の丘

講 師：吹春 俊光

参加者数：31 名

採 取 数：71 種（不明種を含む）

観察記録(50 音順)

Amanita sp.（テングタケ属）Clitocybe sp.（カヤタケ属）Hebeloma sp.（ワカフサタケ属）アイタケ、アカチャツエタケ、アカヤマドリ、アミタケ、ウスキテングタケ、ウスヒラタケ、ウラグロニガイグチ、オオシロカラカサタケ、オオヒメノカサ、オオミノクロアワタケ、オキナクサハツ、オリブニガイグチ、カラカサタケ、カレバキツネタケ、ガンタケ、キイロイグチ、キタマゴタケ、キツネノエフデ、キヒダタケ、クサウラベニタケ、クリイロイグチ、クロハツ、ケショウハツ、コキララタケ、コテングタケモドキ、コバヤシアセタケ、ゴヨウイグチ、サクラタケ、ザラエノハラタケ、シラゲアセタケ、シロオニタケ、シロテングタケ、シロハツ（アイバシロハツ）ススケヤマドリタケ、スッポンタケ、タマゴタケ、チチアワタケ、ツエタケ、ツチナメコ、ツルタケ、テングタケ、テングツルタケ、ドウシンタケ、ドクカラカサタケ、ドクツルタケ、トビチャチタケ、ニオイコベニタケ、ニガイグチモドキ、ニガクリタケ、ニッケイタケ、ヌメイリグチ、ノウタケ、ハツタケ、ハナヒラニカワタケ、ヒイロタケ、ヒナアンズタケ、ヒメカバイロタケ、ヒメキシメジ、ヒメコナカブリツルタケ、ヒメムキタケ、ヘビキノコモドキ、ホオベニシロアシイグチ、マントカラカサタケ、ミドリニガイグチ、ミヤマタマゴタケ、ムラサキヤマドリタケ、ヤマドリタケモドキ、ワサビカレバタケ

【第 35 回観察会】

日 時：2002 年 10 月 11 日

場 所：泉自然公園

講 師：本郷 次雄先生

参加者数：45 名

採 取 数：56 種（不明種を含まない）

観察記録(50 音順)

アカチャツエタケ、アミスギタケ、イロガワリ、ウスヒラタケ、ウラベニホテイシメジ、ウラムラサキ、ウラムラサキシメジ、エリマキツチグリ、カニノツメ、カラカサタケ、カワムラフウセンタケ、カワラタケ、ガンタケ、キシウゲンジ、キツネノカラカサ、キヌハダトマヤタケ、クリカワヤシャイグチ、クロハツ、クロハツモドキ、クロ

2003 年度行事報告

ラッパタケ、コガネヤマドリ、コタマゴテングタケ、コテングタケモドキ、コバヤシアセタケ、コフキサルノコシカケ、シロタマゴテングタケ、シロトマヤタケ、スギエダタケ、スッポンタケ、スミゾメヤマイグチ、タマキクラゲ、タマゴタケモドキ、タマチョレイタケ、チシオタケ、チチタケ、ツエタケ、ツチグリ、ツチナメコ、トビチャチタケ、ニオイキシメジ、ニオイコベニタケ、ニガクリタケ、ノウタケ、ハイロイタチタケ、ハエトリシメジ、ハタケシメジ、ヒイロベニヒダタケ、ヒメキシメジ、フタイロシメジ、ホウネンタケ、ホオベニシロアシグチ、マンネンタケ、ミドリスギタケ、ミヤマタマゴタケ、ヤグラタケ、ユキラッパタケ

【第 11 回スライド大会】

日 時：2003 年 1 月 12 日（土）
場 所：千葉県立中央博物館講堂
参加者数：47 名
テ ー マ：子囊菌・腹菌・硬質菌

スライド発表

佐野 悦三：雑木林のきのこ最近新称となつたきのこ、Tuber 属の採集方法のポイント等を詳細に紹介。

後藤 康彦：タコウキン類、腹菌類、子囊菌

浅井 郁夫：コナガエノアカカゴタケ、ケシボウズの仲間、アカダマノオオタイマツ等、日本でも珍しい菌が千葉県の外房で採集された例を紹介。

腰野 文男：子囊菌、腹菌、硬質菌

安藤 洋子：子囊菌の楽しみ

大久保 彦：子囊菌を中心として

須賀 良行：2002 年の千葉のきのこ

ハンドベルサークル「すずらん」による演奏

曲目 いつも何度でも
アンパンマン体操
星に願いを

【総 会】

日 時：2003 年 7 月 12 日（土）

場 所：佐倉城址公園

参加者数：53 名

蒸し暑いこの日、総会が佐倉城址公園で行われ、事務局より 14 年度会計報告と 15 年度世話人と行事予定の提案があり了承されました。

【第 36 回観察会】

日 時：2003 年 7 月 12 日（土）

場 所：佐倉城址公園

講 師：吹春 俊光

参加者数：53 名

採 取 数：53 種（不明種を含む）

総会の後、各自城址公園の中を散策し、午後から同定会を行いました。一年の始まりの観察会で期待が集まりますが、さてどうだったでしょう。梅雨の間も雨が比較的少なく、どこに行ってもキノコが少ないように感じました。それでも皆さんの搜索能力の結果、たくさんのキノコが集まりました。

観察記録(50 音順)

Cystoderma sp.(シワカラカサタケ属)、Lepiota sp.(キツネノカラカサタケ属)、Polyporus sp.(タマチョレイタケ属)、アオキオチバタケ、アラゲキクラゲ、イヌセンボンタケ、オオツルタケ?、オオホウライタケ、オキナクサハツ、オリブサカズキタケ、カニノツメ、キチャハツ、キッコウアワタケ、キヒダタケ、キンカクイチメガサ?、クモタケ、クリイロイグチ、クロアザアワタケ、クロラッパタケ、ケショウハツ、ケシロハツモドキ、コウジタケ、コキララタケ（胞子：心臓形）、コフキサルノコシカケ、コムラサキシメジ、サクラタケ、サマツモドキ、シロキツネサカズキ、シロヌメリイグチ?、スエヒロタケ、スジウチワタケ、スッポンタケ、ダイダイガサ、タマムクエタケ、

チシオタケ、ツバナシフミツキタケ?、ツルタケ、
テングツルタケ、トキイロヒラタケ、ニオイコベ
ニタケ、ニオイワチタケ、ニセクサハツ、ノウ
タケ、ハイイロイタチタケ(シラカシの枝から出
る)、ハタケチャダイゴケ?、ハリガネオチバタケ
or ハナオチバタケ、ヒイロタケ、ヒメキシメジ、
ヒメコナカブリツルタケ、ベニヒダタケ、マツオ
ウジ、ミドリニガイグチ、ヤナギマツタケ

【第37回観察会】

日 時：2003年9月28日(土)
場 所：風土記の丘
講 師：吹春 俊光
参加者数：49名
採 取 数：36種(不明種を含む)

8月の気温の低さは異常でした。10年前の米
不足の年を思わせる冷夏となっていました。
お天気が悪い割には大雨も無く、降水量も少
ないようでした。そのような訳で秋になってもキ
ノコが不作なのでしょうか。岩手ではマツタケ
が大豊作というニュースをテレビでやっていま
したが、千葉も埼玉も長野も栃木も福島も富士
山も私が行った時にはキノコが殆どありません
でした。今回もいつもの年なら山のように採れ
るのに会員の皆さんの能力をしても採れたキノ
コは少なかったようです。

観察記録(50音順)

Collybia sp.(モリノカレバタケ属)、Gymnopilus
sp.(チャツムタケ属)、アラゲキクラゲ、ウスヒラ
タケ、ウチワタケ、エゴノキタケ、エビウラタケ、
オキナクサハツ、カワラタケ、ガンタケ、クダホ
コリ、クロハツ、コキララタケ(千葉では殆どが
コキララタケ)、コテングモドキ、コフキササルノコ
シカケ、サケバタケ、サナギタケ、サワフタギタ
ケ、シハイタケ、シラゲアセタケ?、センベイト
ケ、ダイダイガサ、チチアワタケ、ツエタケ、ツ
チグリ、ツルタケ、ニガクリタケ、ヒトクチャタケ、
ヒメカバイロタケ、ヒメスギタケ、ヒメヌメリイ
グチ(ツバがある)、フクロツルタケ、ベニヒダタ
ケ、ホウネンタケ、マメホコリ、ムレオオイチョ
ウタケ

【第38回観察会】

日 時：2003年10月11日(土)
場 所：泉自然公園
講 師：森林総合研究所 服部 力先生、
根田 仁先生
参加者数：54名
採 取 数：66種(不明種を含む)

本郷先生をお迎えするはずでしたが、ご都合
が悪くお越しいただけなかったのですが、森林
総合研究所の服部力先生と根田仁先生のお二人
がお忙しい中を筑波から車で駆けつけて下さり、
硬質菌とハラタケ類の両方を勉強できる豪華な
観察会となりました。今年の天候不順はキノコ
にも影響して、あまり種数は期待できませんで
したが、この日ばかりは服部先生がいらっしゃ
るので普段は手を出さない硬いキノコも皆さん
安心して採取されていました。服部先生は千葉
菌観察会に何度も来ていただいております、き
っと何度も教えていただいているので、説明を
聞いている時は区別点もはっきりするのですが、
ちっとも身につかない自分にあきれるば
かりです。今回は絵を描いて詳しく教えていた
だきました。一方、根田先生はハラタケ科周辺
の系統分類の研究をされています。この日はツ
キヨタケの学名にまつわるお話をいただき
ました(後述)。学名って、大変ですね。

観察記録(柔らかいキノコ 50音順)

Agaricus sp.(ハラタケ属)、Gloiocephala sp.,
Lactarius sp.(チチタケ属)、Lepiota sp.(キツ
ネノカラカサタケ属)、Russula sp.(ベニタケ属)、
アカチャツエタケ、アシナガヌメリ(アンモニア
菌)、ウスヒラタケ、ウラムラサキシメジ、エリマ
キツチグリ、オニタケ、カゴタケ?、サクラタケ
の仲間、サマツモドキ、シロヌメリイグチ、スギ
ヒラタケ、スッポンタケ、チシオタケ、ツエタケ、
ツチナメコ、ツルタケダマシ、テングタケ、ドク
ツルタケ、ナラタケ、ナラタケの仲間、ナラタケ
モドキ、ニガクリタケ、ノウタケ、ハイイロシメ
ジの仲間、ハタケシメジ、ヒメカバイロタケ、ベ
ニヒダタケ、マメザヤタケ?、ミドリスギタケ、
ムジナタケ

観察記録(硬いキノコ 50 音順)

Antordrella fragrans (クマリン臭) アオゾメタケ、ウズラタケ、ウチワタケ(毛が生える。環紋はつきり) エゴノキタケ(ひだ粗い) エビウラタケ(裏えび茶。裂くとゼリー状の管孔) オオチリメンタケ、カイガラタケ(裂くと肉白い) カタオシロイタケ(褐色腐朽菌。緑色を帯びる) カワラタケ、コフキサルノコシカケ、サワフタギタケ(ヨウ素で赤褐色。胞子載頭形。千葉あたりではアカマツに出る) シジミアミタケ(完全な孔) シワタケ、タマチョレイタケ(北方系。菌核。南方系は菌核できない) チャウロコタケ、チャカイガラタケ(肉薄茶色。若いとき紫色) チリメンタケ、ツヤウチワタケ(柄の色が薄い) ツヤウチワモドキ(中心生の柄。孔大型。胞子長い) ニクウスバタケ(胞子小) ニクハリタケ(大型シスチジア) ニセニクハリタケ(クマリン臭) ネンドタケ(肉の色黄色帯びる。胞子楕円) ネンドタケモドキ(背着生。針状。胞子リセージ型) ヒメシロカイメンタケ(スポンジ状) ヒメシロヒズメタケ(珍しい) ヒラフスベ、ベッコウタケ(日本のものは一年生) ミダレアミタケ(毛。迷路状。裂くと黒い線) ミヤマチャウロコタケ

根田先生のお話 観察会の同定会場にて

<ウスヒラタケとヒラタケ>

ウスヒラタケとヒラタケの見分けは困難。交配するか、しないかで区別。DNA では区別できる。別種ではなく、分かれ始めたばかりの近縁種。ヒラタケは寒い時期に発生し、ウスヒラタケは秋以外の季節にも発生する。ヒラタケは根元に毛が生える。ヒラタケは大型のものが多く、

<トキイロヒラタケ>

白色のトキイロヒラタケが採れることがあるが、赤色と白色のものは交配するので同種。

<他のヒラタケ属>

タモギタケ、ツバヒラタケ(稀) シロコカワキタケ、オオヒラタケ(大きい。根元に分生胞子が出る)

<ヒメカバイロタケ属>

キチャボウライタケ、ピロードエノキタケは柄の根元に褐色の毛。水酸化ナトリウムでマウントすると赤色に染まる。ヒメカバイロモドキは柄が側生。短い。針葉樹に生えるものと広葉

樹に生えるものがある。

<ツエタケ>

何種類もある。ネットタイヌメリタケ(アフリカ) ヌメリツバタケ(ヨーロッパ)は日本のものとは異なる。木材から出るもの → ヌメリツバタケモドキ等3種。地面から出るもの → 根が長い。東ドイツの研究者が整理し、*Japonica* という種名をつけた。

<ハタケシメジとホンシメジ>

ヨーロッパの研究者がDNA 鑑定したところ、ホンシメジもハタケシメジの中に入ってしまったという研究を発表したが、標本のホンシメジが実はハタケシメジだった。ATCC の菌株は同定が違ふことも多い。根田さんの実験ではDNA 上区別できる。交配実験は行っていない。

佐野さんのコメント：ホクト産業のハタケシメジよりタカラのホンシメジは味も香りも良いと聞いたことがある。

根田先生のお話 研修室にて

<ツキヨタケの学名にまつわる話>

ツキヨタケは日本固有種で、光る毒キノコであり、ツマビラ、ワタリなどの名で古くから多くの文献に登場している。ツキヨタケの学名はいろいろな変遷をたどっている。「日本の毒きのこ (GAKKEN 2003)」の142 ページで長沢栄史氏が詳しく紹介している。

Pleurotus noctilucens Inoko (1889)

記載が無いことと、ヨーロッパで既発表の種名だったため無効とされた。

(参考: *Lactarius hatsudake* Tanaka (1889)

日本で最初につけられたキノコの学名)

Pleurotus japonicus Kawamura (1915)

川村清一博士が新種として発表。当時はヒラタケ属だった。

Lampteromyces japonicus (Kaam.) Sing. (1947)

Singer が新しい属名に移し、現在はこの学名が使われている。

欧米に似ている光るキノコとして *Omphalotus olearius* がある。柄が発達しているため、*Clitocybe* (カヤタケ属) とされていた。Jack O'lantern と呼ばれ、*Paxillus* (ヒダハタケ属) にも似ている。胞子は楕円形。ツキヨタケは胞

子が丸い。毒成分はイルージン S で同じである。

2002 年にモンカルボ (Jean-Marc Moncalvo) というオーストラリアの研究者が DNA 系統樹でツキヨタケと *Omphalotus* とは殆ど同じ属とした。学名を *Omphalotus japonicus* とするよう提案している。

ところが、根田さんがさらに古い 1887 年の古い標本を見つけた。さらに学名が変わる可能性がある。

【第 12 回スライド大会】

日 時：2004 年 1 月 11 日 (日)
場 所：千葉県立中央博物館講堂
参加者数：49 名
スライド発表

浅井 郁夫：2003 年に出会ったケシボウズタケ属

後藤 康彦：ニンギョウタケモドキ科と今年の私にとって珍しいキノコ

大久保 彦：埼玉産 *Tuber* 属 (トリュフ) 論考について

須賀 良行：昨年出会ったキノコ

吉田 幸二：2003 年のきのこ

湯峯 英二：2003 年を中心に見つけたキノコの写真

腰野 文男：房総丘陵地のキノコ

三休 さん：ファントム・マツタケ

ハンドベルサークル「すずらん」による演奏

曲目 七つの子
赤とんぼ
となりのトトロ (大作さんのトロンボーンと夢の共演)

【講 座】デジカメ講座

日 時：2003 年 8 月 30 日
場 所：千葉県立中央博物館講堂
講 師：大作 晃一
参加者数：17 名

午前中、大作さんよりデジカメの基本の基を習い、午後からは実践で博物館の隣の「青葉の森」に出かけました。今年のキノコの無さはここまで！と感心してしまうほど、暗い森の中に

小さなニガクリタケが生えているだけでした。初心者には手強い小さなキノコを対象にピント合わせの練習をしました。そして初心者を邪魔するヤブカの攻撃に筆者は諦めて逃げ出してしまいました。再度講堂に戻り、各自の作品を例に大作さんからのアドバイスがありました。大作さんによると爪楊枝を練習台にするとピント合わせが上手くなるそうです。お試しあれ。詳しくは波部さんの講義録をお読みください。

【講 座】ホコリタケ類の分類

日 時：2004 年 3 月 27 日
場 所：千葉県立中央博物館講堂
講 師：糟谷 大河
参加者数：25 名

午前は糟谷さんによるホコリタケ類の分類のお話がありました。分類学概論から話され、ホコリタケ類についてかなり詳しいテキストを用意して説明していただきました。日本新産種がこれからかなり期待できるとのこと。千葉からホコリタケ科 12 種が見つかり、その半数が日本新産種だったそうです。ホコリタケの発光性を利用しての分類方を研究されているお話も興味深いものでした。糟谷さんはとても若い学生さんということですが、その講師ぶりはとても慣れた雰囲気でした。立派だなと思いました。これからの長い研究生活を考えれば素晴らしい業績をきっと残されることと思います。

午後は乾燥標本を顕微鏡で観察しました。

【覚えたこと】

1. コットンブルーで弾糸は壁が染まり、偽弾糸は壁は染まらず、内部が染まる。
2. コンゴレッドで未熟な担子器を見る。但しめったに見ることはできない。
3. ノウタケ (胞子は球形) と思っていたのは、ほとんどがオオノウタケ (楕円形の胞子が混在) だった。

デジカメで顕微鏡写真を撮り、すぐその場でパソコンとプロジェクタで映し出しながら、皆で観察できたので良かったです。